

公益社団法人 日本教育会「オンデマンドセミナー」
『生徒指導提要』の示す一人ひとりの子どもの支援～

東京成徳大学 石隈利紀
(学校心理士SV, 公認心理師, ガイダンスカウンセラー)

HP: <https://schoolpsychology-ishikuma.org/>

X: [石隈利紀@学校心理学研究室](#)



1. 『生徒指導提要』の改定について

(I) 『生徒指導提要』 (2022)の柱

(対象) すべての子どもの発達支援

多様な子ども (個性、教育ニーズ；背景)

子どもの人権

(場面) 学校教育すべての場面で

授業、道徳教育、特別活動、特別支援教育など

(責任) チーム学校を通して

(2) チーム学校

『生徒指導提要』

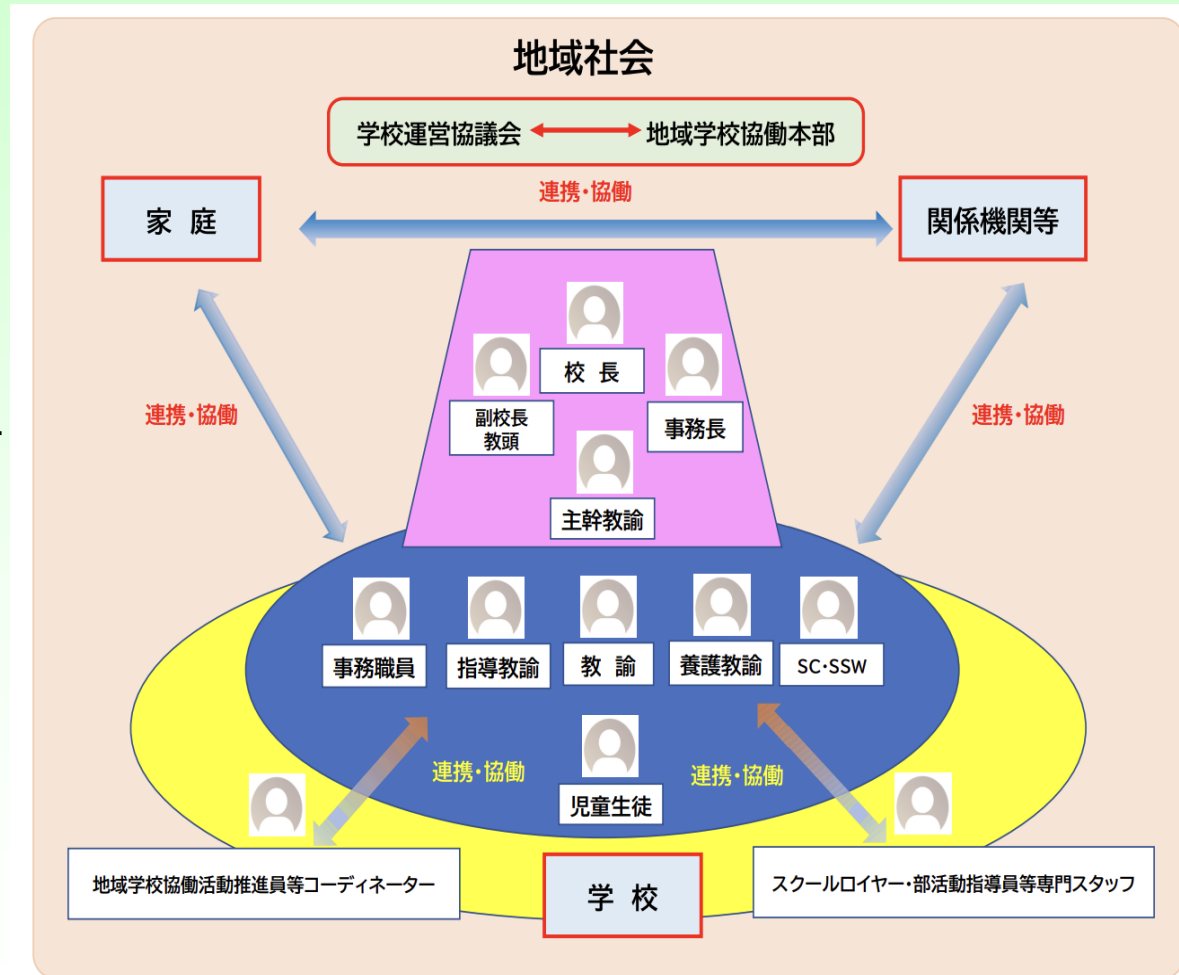
(2022)p.69より

「チーム学校のイメージ」

- ・ 学校・家庭・地域の連携強化
- ・ 学校内のチーム強化

☆中央教育審議会答申

(2015) チーム学校の方針



2. 生徒指導を支える学校心理学

(1) 学校心理学とは

心理教育的援助サービスの理論

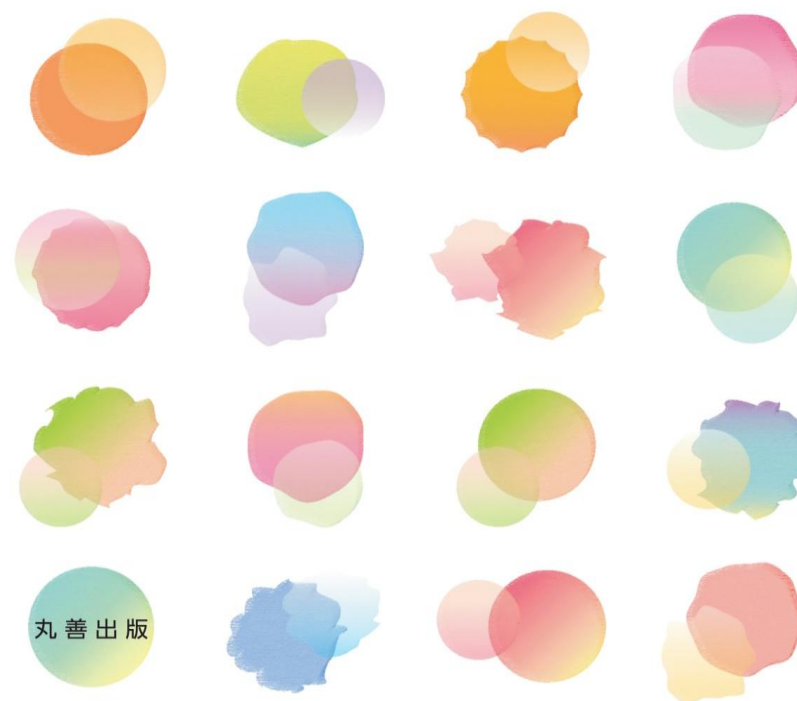
と実践：一人ひとりの子どもの学習面、
心理・社会面、進路・キャリア面、
健康面など「学校生活」における
問題状況・危機状況での援助と、
子どもの成長を促進する教育活動

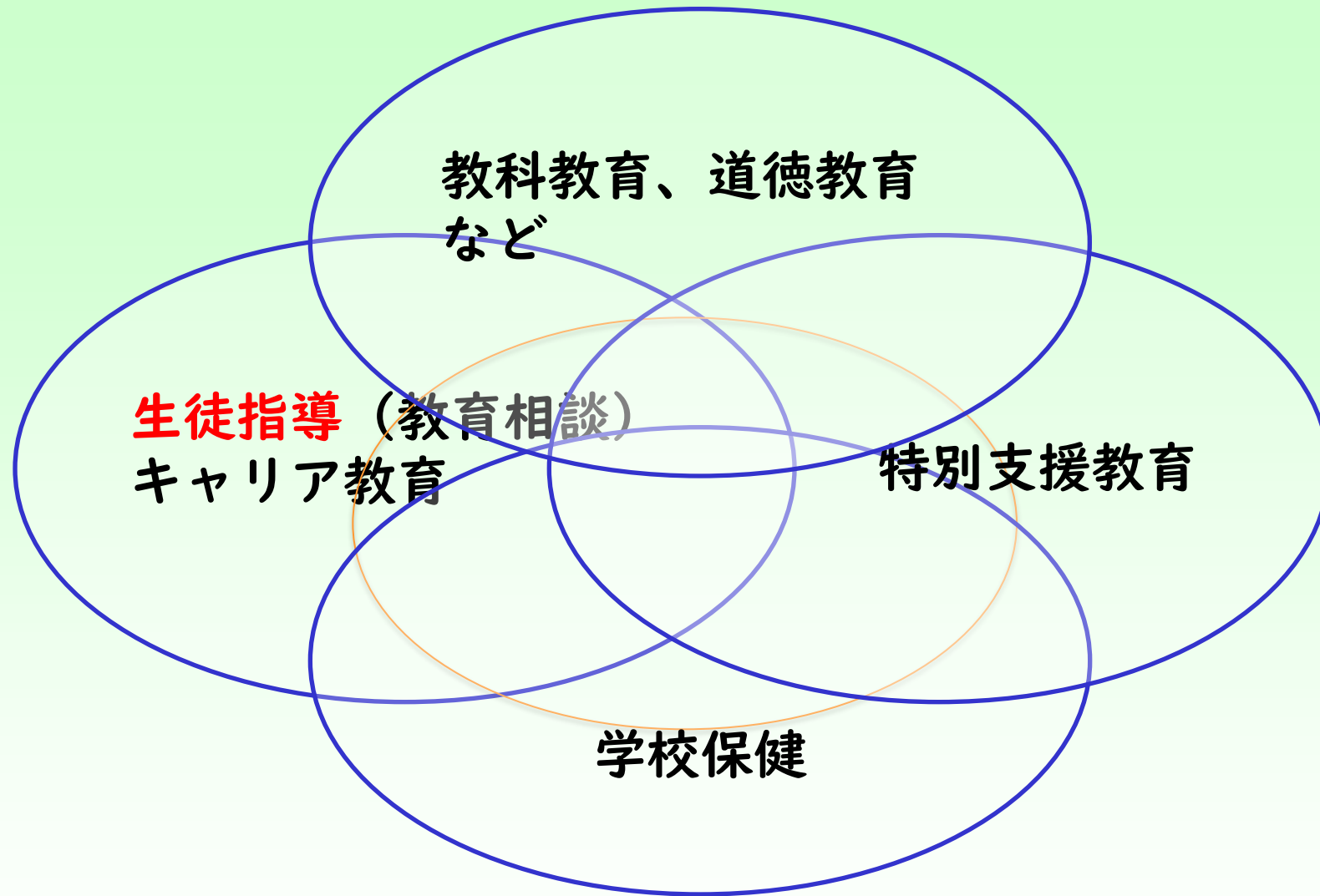
★学校生活の質 (Quality of School
Life: QOSL)の向上

★ヒューマン・サービスからパートナーシップへ

学校心理学 事典

一般社団法人
日本学校心理学会
[編]





(2) 学校心理学の領域：一人ひとりの子どもの学校生活の援助

3. 生徒指導の定義と目的

(1) 生徒指導の定義

- ・ 生徒指導は、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることが出来る存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである。
- ・ 生徒指導上の課題に対応するために、必要に応じて指導や援助（支援）を行う。

★生徒指導は学校教育全体を通して行う

★（特定の）課題＝成長や発達の過程での苦戦 「支援」

特定の課題を想定しない場合は「支える・支持する」

(2) 生徒指導の目的

・ 生徒指導は、児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支える。

★多様性（個性：教育ニーズ、背景）の尊重を宣言

個性（その子どもらしさ）の伸長（2010）

→個性（特性や発達の状況）の発見とよさや可能性の伸長

★次期学習指導要領の論点 「多様性の包摂（equity）」

(3) 子どもの権利の尊重

- ・ こども基本法 2022.6

「全ての子どもが、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ」

「権利の擁護が図られる」社会の実現

「自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会が確保されること、さらに意見が尊重されること」

(4)子どもの言動のアセスメント

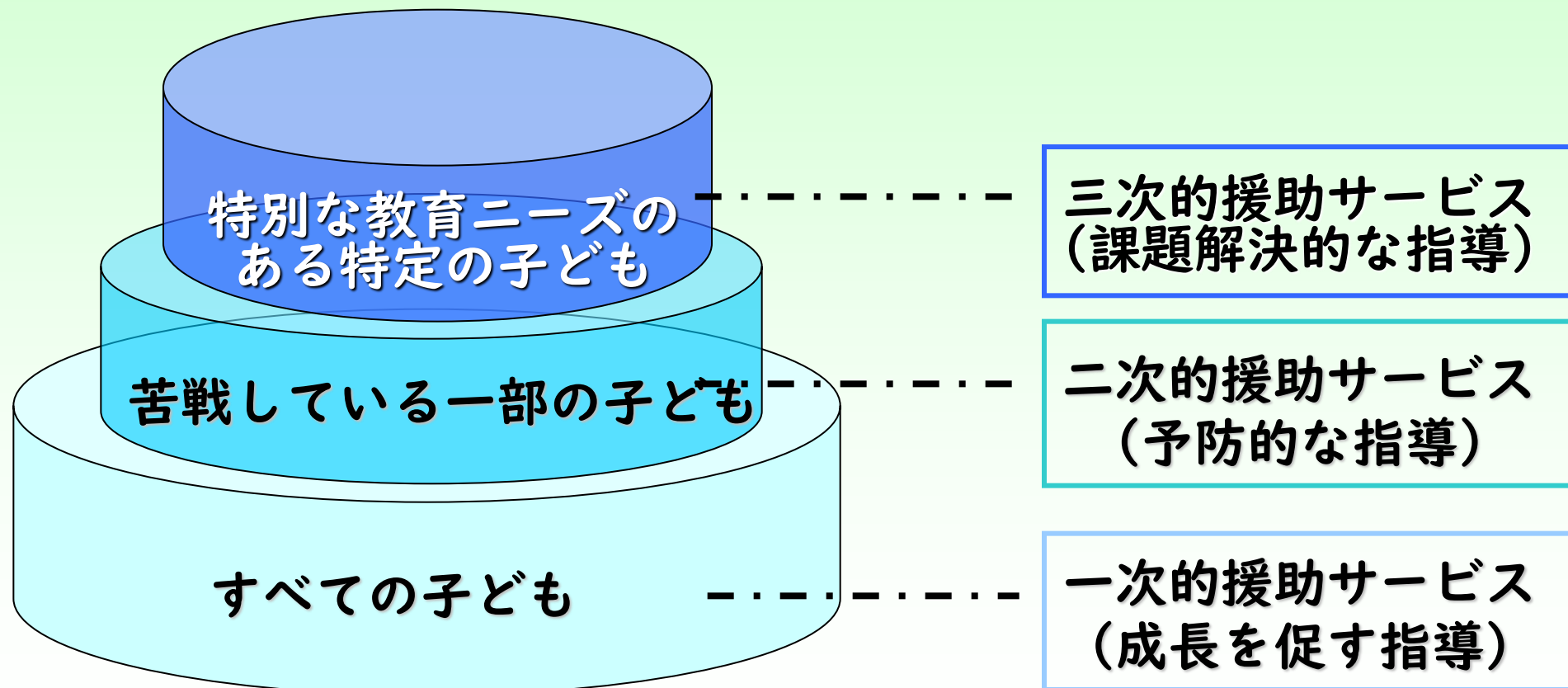
- ・子どもの言語や行動

- A 一人ひとりの子どもの特性や発達状況として理解し、意見表明として受け止める
- B 子どもが何を言いたいのかを想像し言語化を援助する

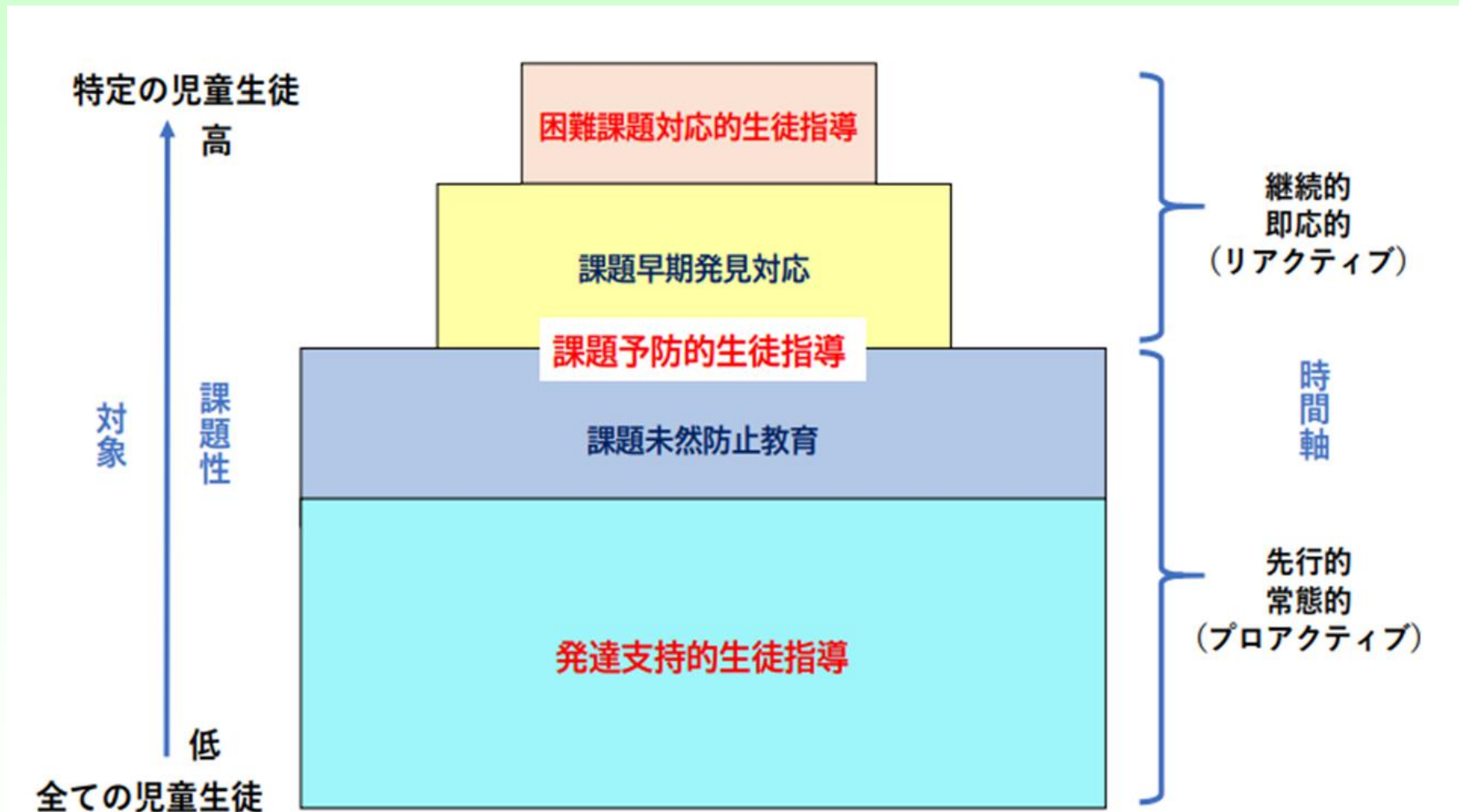
例：授業中寝ている、リストカット、パニックになる
その意味は：学習面の苦戦、生きづらい気持ち、SOS

4. 重層的支援：三段階の心理教育的 援助サービス

(1) 三段階の心理教育的援助サービスと『生徒指導 提要』2010)：多層的支援、PBI、RTI



(2) 重層的支援構造 (2022)



【一次的援助サービス】

すべての子どものもつ共通のニーズに応じる開発的援助

ユニバーサルデザイン、ローカルデザイン

安全・安心な風土の醸成

①発達支持的生徒指導

- ・子どもとの関わり：挨拶、声かけ、励まし、対話
- ・社会性と情動の学習（SEL）：自己の捉え方と他者の関わり方を基盤として、社会性に関するスキル、態度、価値観を身につける学習

②課題未然防止教育

いじめ防止教育、SOSの出し方教育を含む自殺予防教育、薬物乱用防止教育など

【二次的援助サービス】

課題早期「発見」対応：

一部の子どもを対象とした、子どもの苦戦が発達を妨害しないようにする予防的援助（付加的）

①苦戦の始まった子ども

②課題のリスクの高い子ども（発達障害、健康の課題のある子ども、支援を要する家庭の子ども、外国にゆかりのある子ども、転校生など）

教育的配慮： 課題のリスクの高い子どものリストづくり
（運動会など行事の支援）

SOSの発見と対応（健康観察アプリの活用など）

【三次的援助サービス】

★不登校・発達障害は解決すべき問題か？

困難課題対応的生徒指導

特別な援助ニーズのある「特定の子ども（不登校、いじめ、非行、発達障害に関する困難さなど）」を対象として、個別に計画された援助（付加的）。子どもがよさや可能性（自助資源）を伸ばし、援助資源を活用しながら、発達するのを支援する。

★合理的配慮

包括的かつ精密なアセスメント（例：認知水準や認知特性 はWISC-V、認知能力と習熟度の差はK A B C - II）に基づく「個別の指導計画」、「個別の教育支援計画」、「個別の支援計画」の作成と実施：「チーム学校」

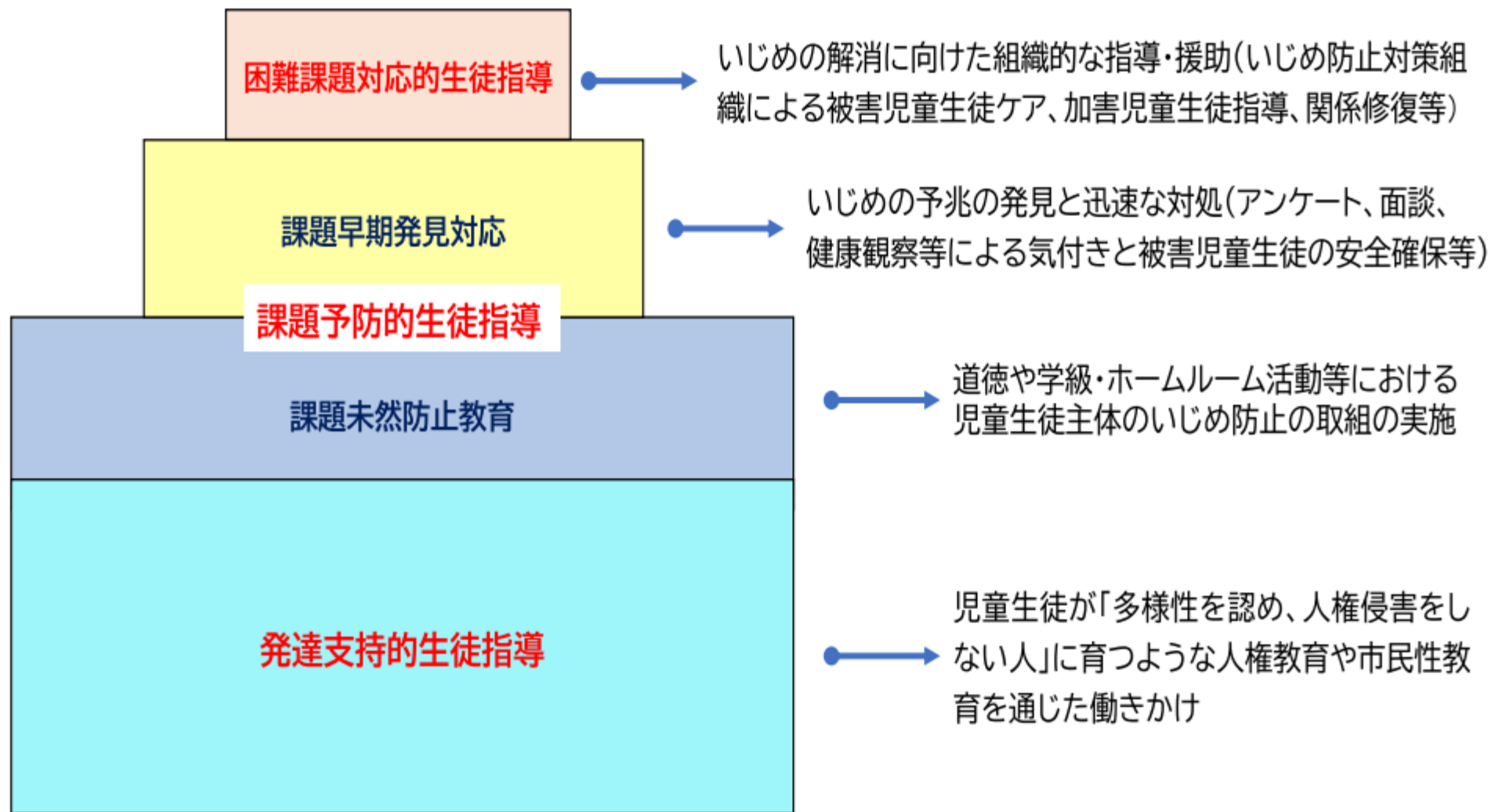


図9 いじめ対応の重層的支援構造

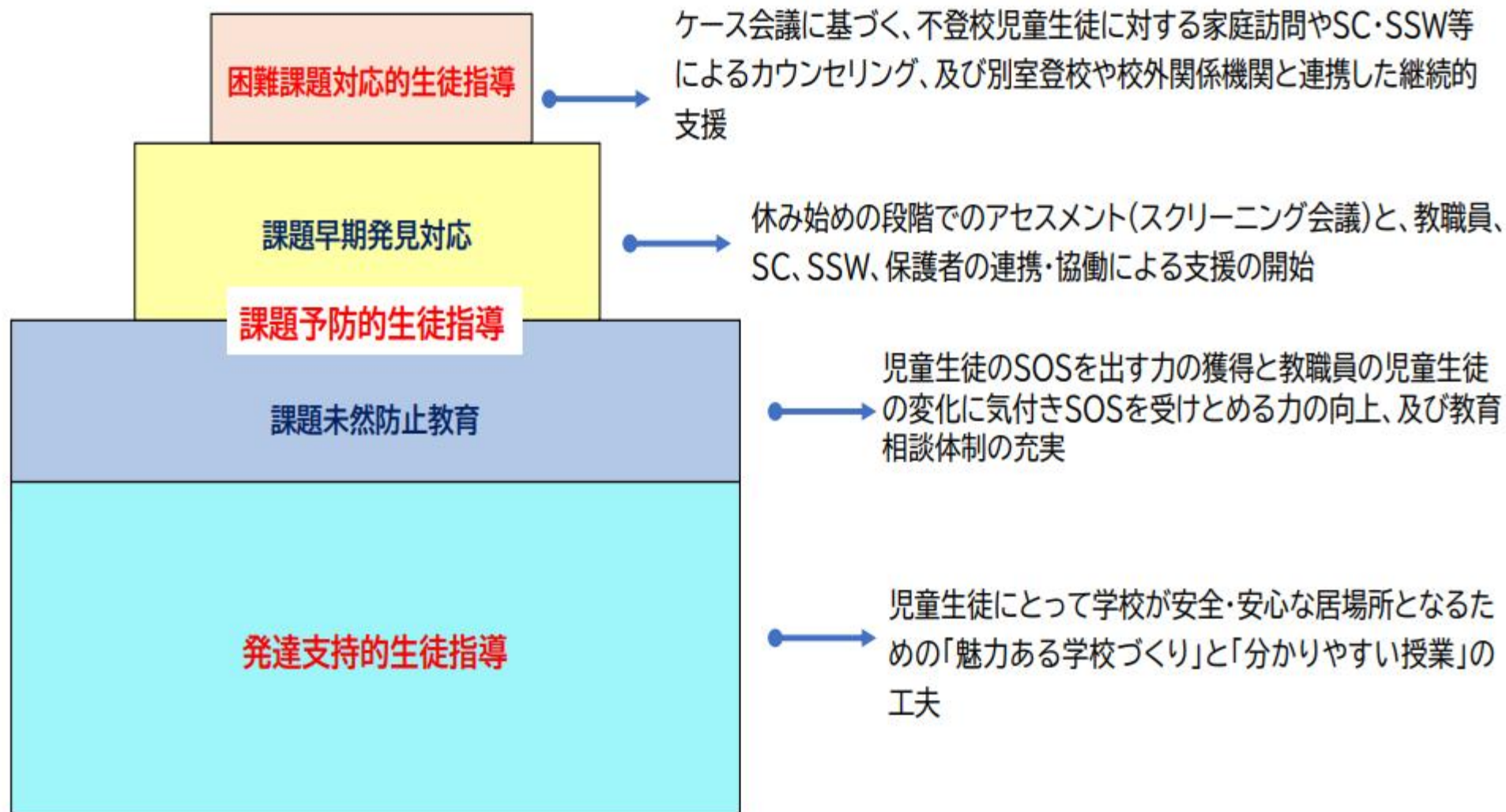
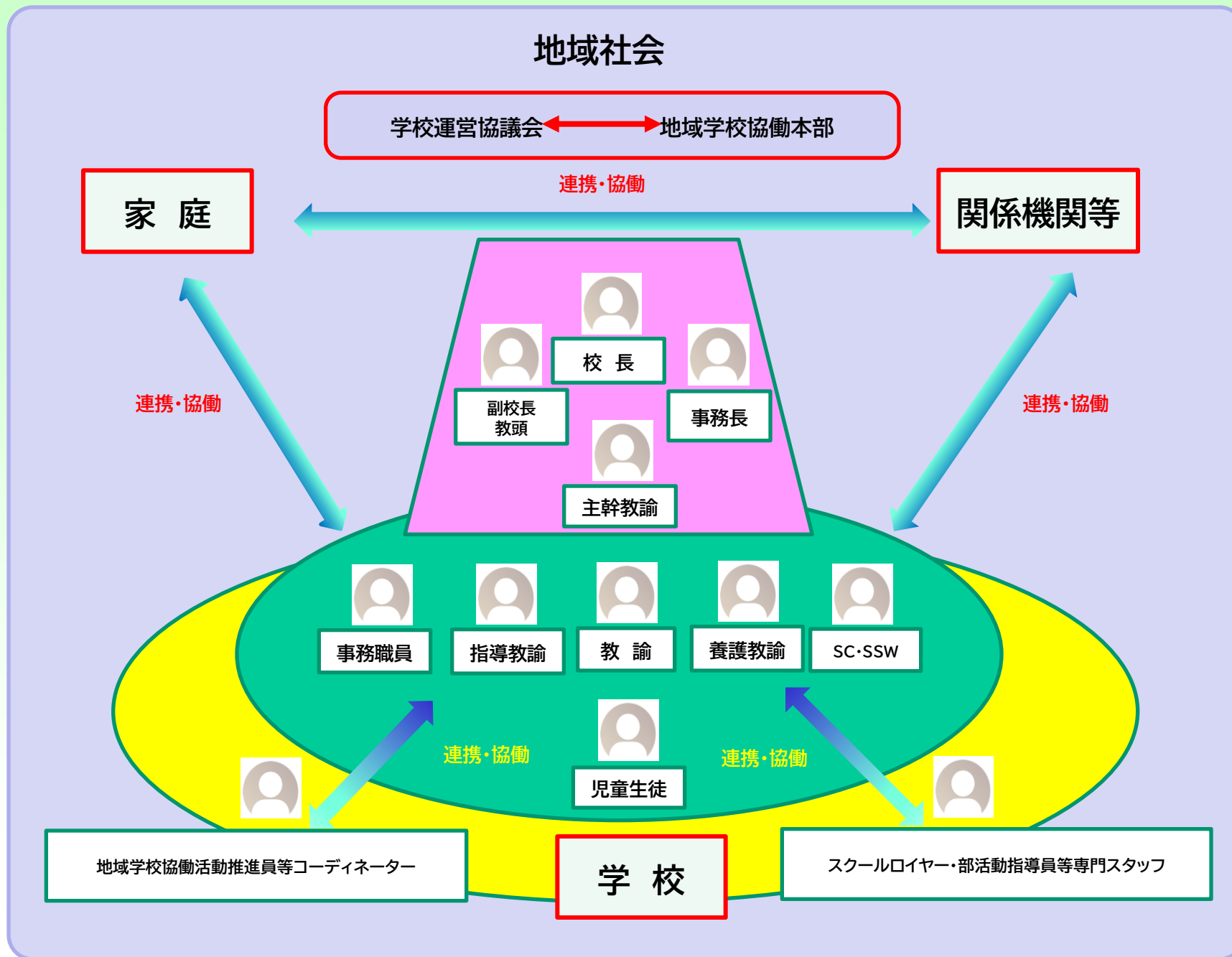


図 18 不登校対応の重層的支援構造

5. チーム学校の充実



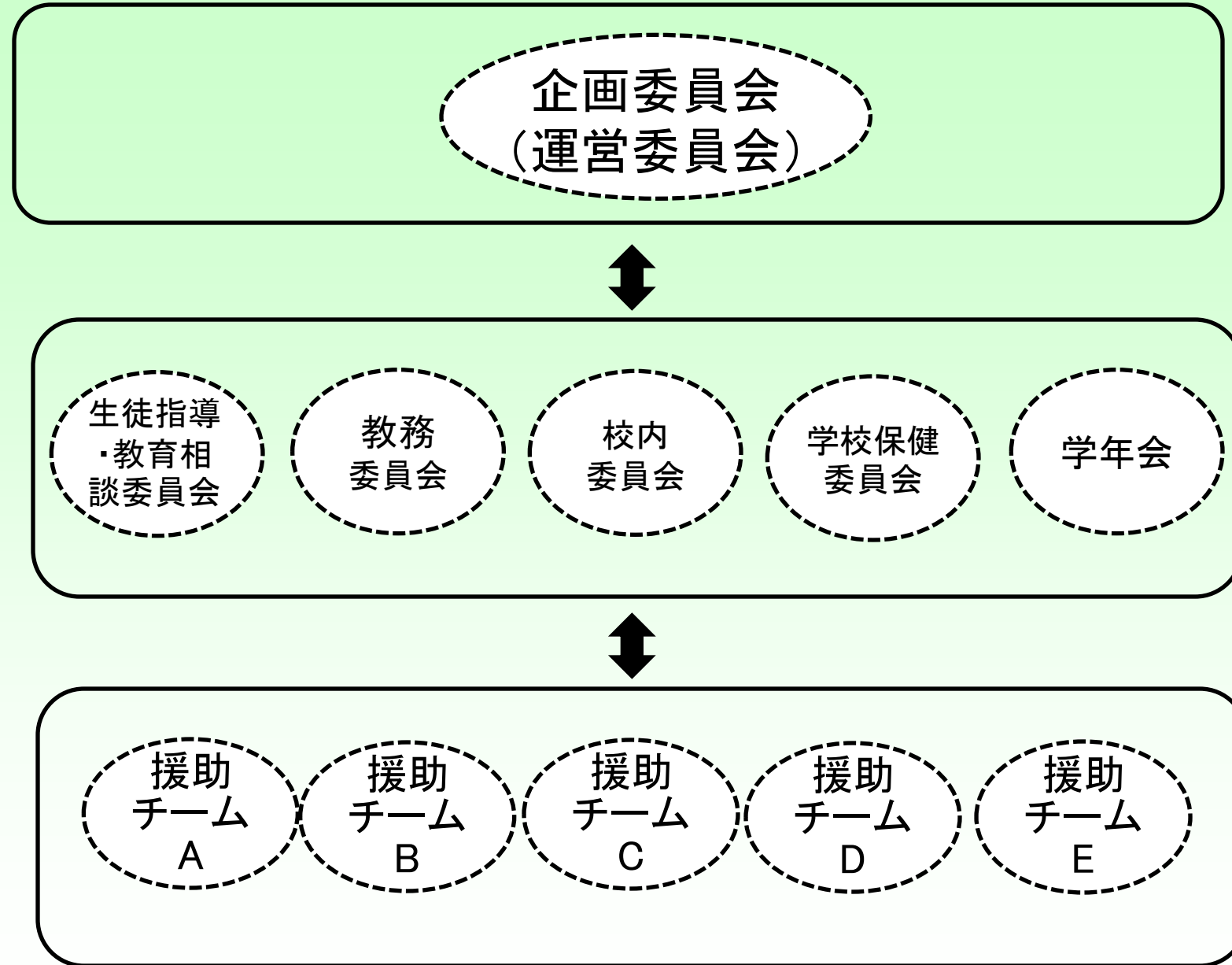
(I) チーム学校における援助サービスのシステム(学校心理学)

- A 個別の援助チーム：保護者＋担任＋（生徒指導主事・養護教諭・S Cなど）コーディネーター、関係の教職員
- B コーディネーション委員会（生徒指導部会、教育相談部会など）：コーディネーターチーム。生徒指導主事、教育相談コーディネーター、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、S C、教頭など
- C マネジメントチーム（企画委員会など）：管理職、生徒指導主事、事務長など

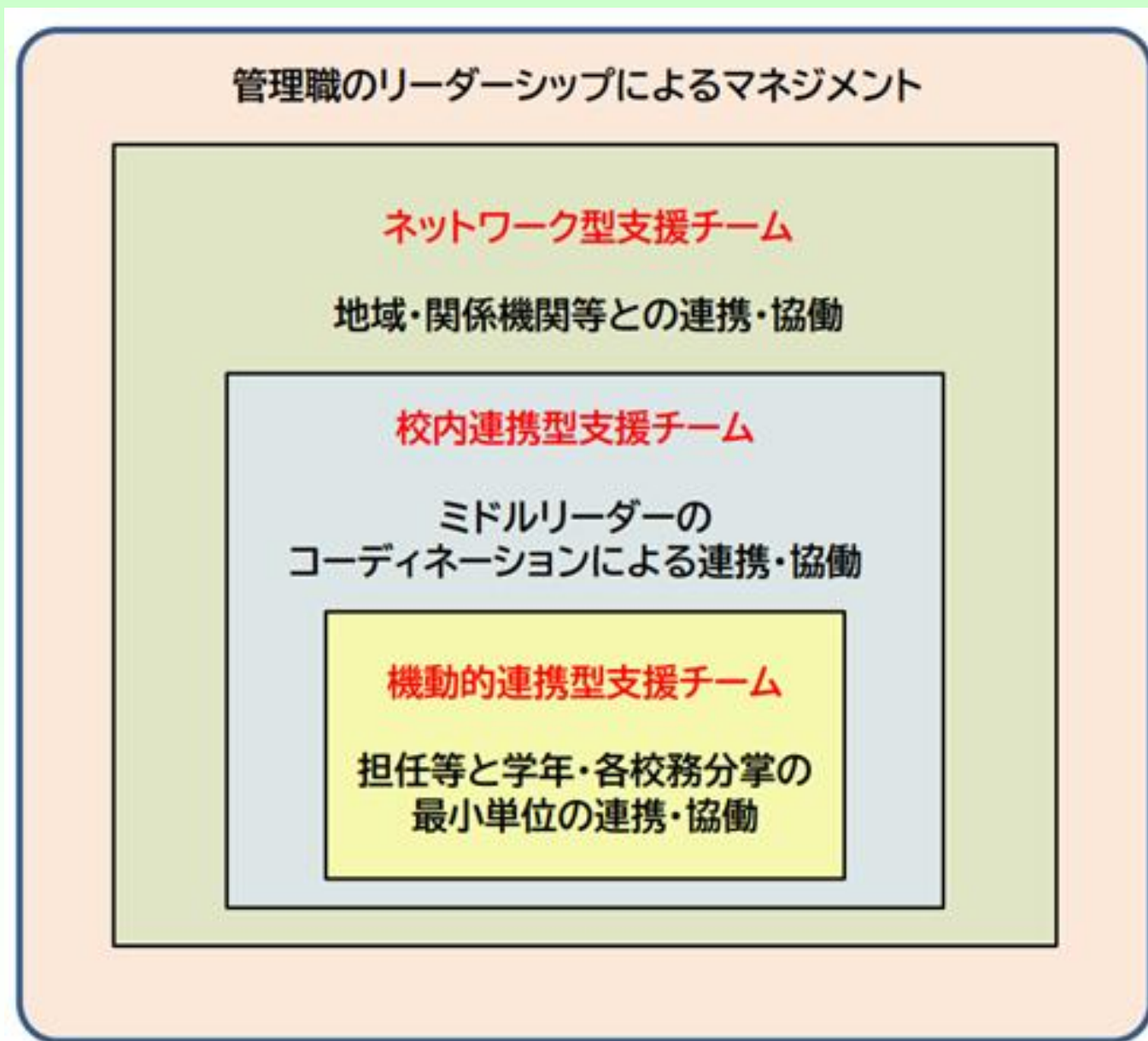
マネジメント
委員会

コーディネー
ション委員会

個別の援助チ
ーム

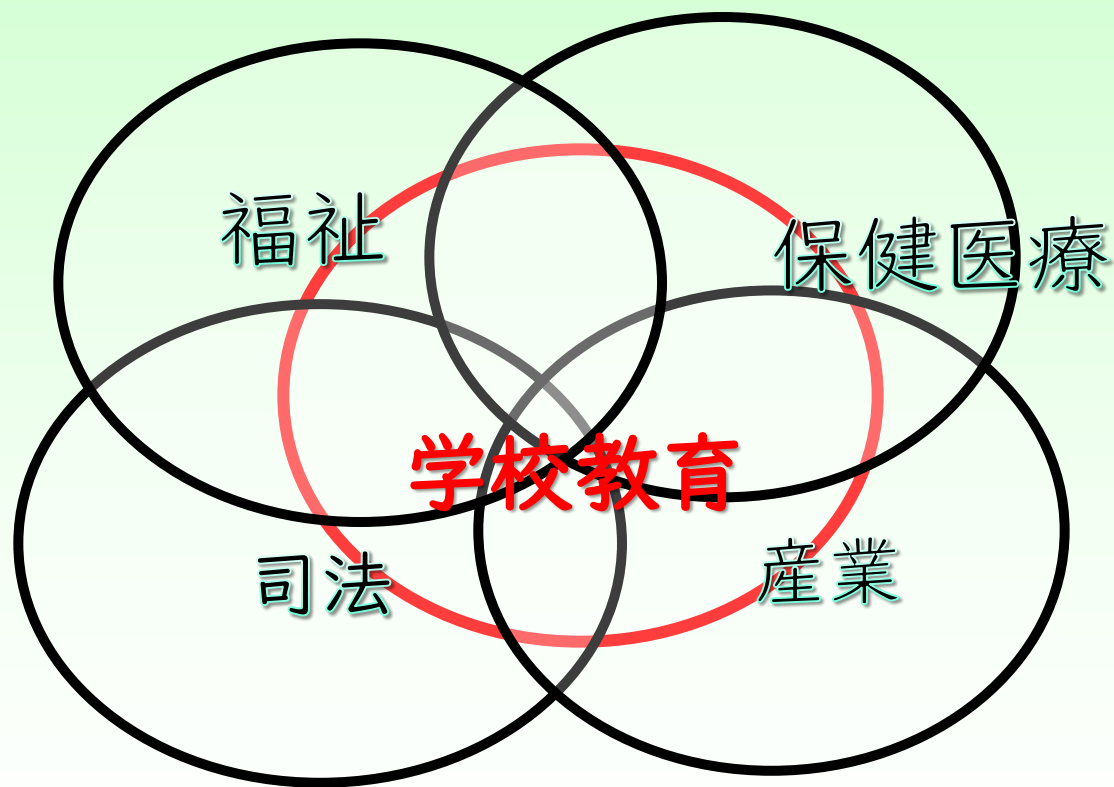


3層の援助チームシステム〔石隈・家近(2021)から〕



(2) 支援チームの形態

(3) チーム学校からチーム子育てへ



6. 子どもの支援を支える教師と SC/SSWの動向

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1302910.htm

今後の教職課程や教員免許制度の在り方について（中間まとめ）たたき台

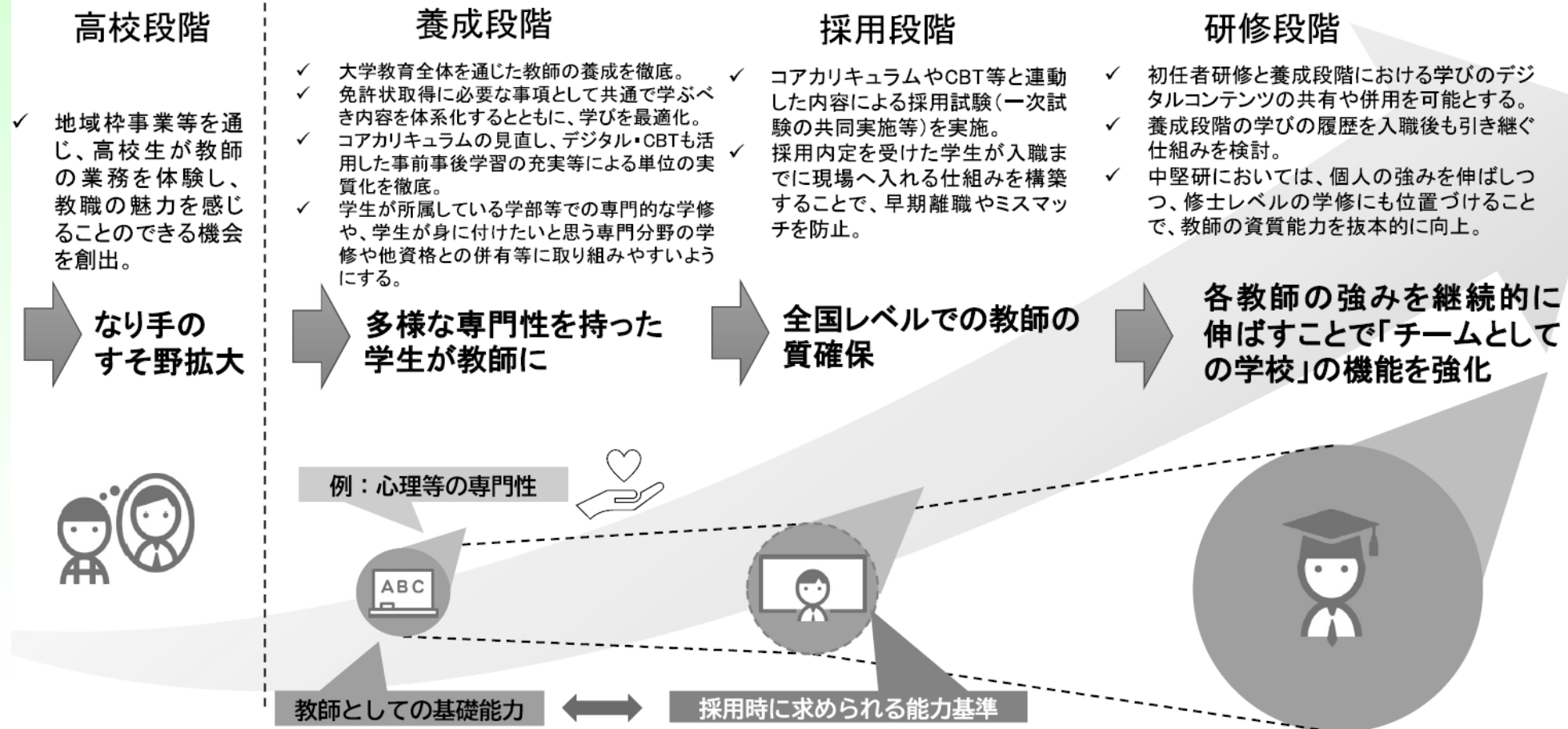
令和7年12月5日

中央教育審議会教員養成部会

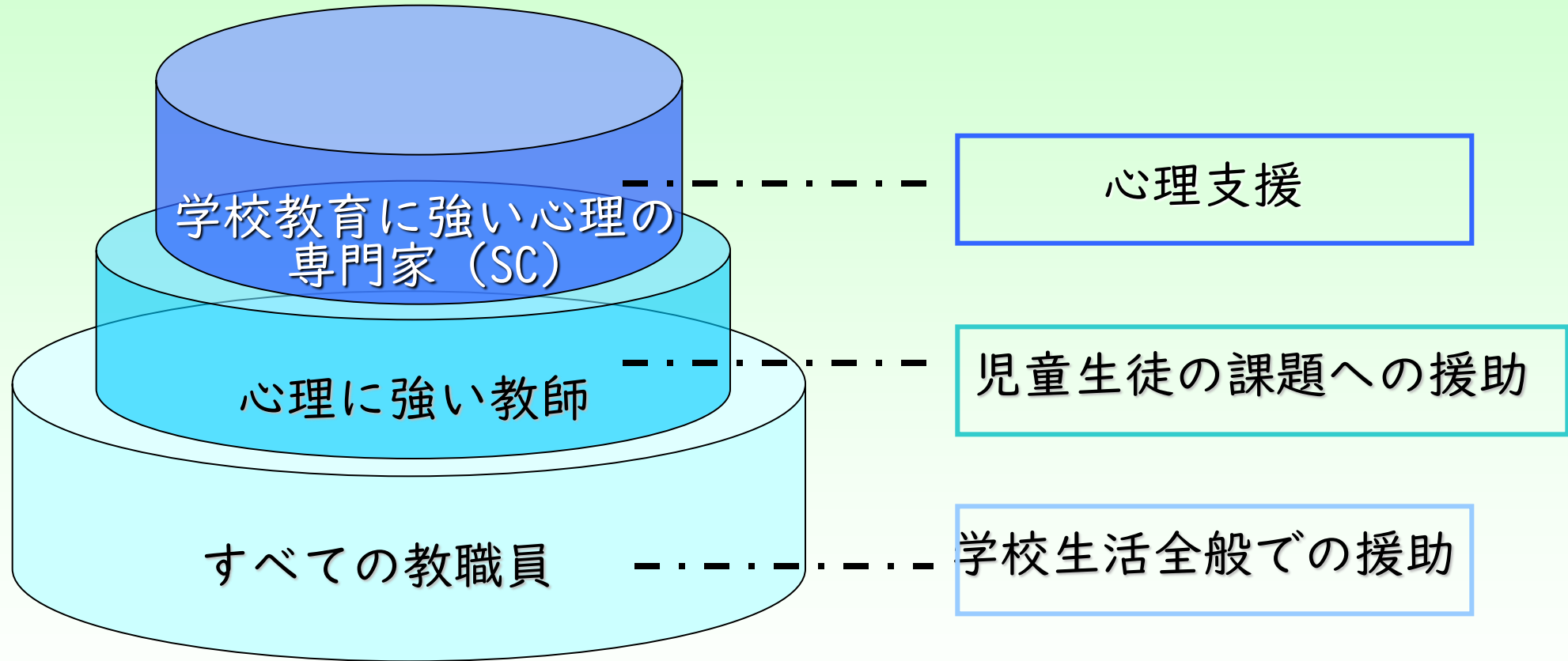
教職課程・免許・大学院課程ワーキンググループ

養成・採用・研修の各段階における教師の能力育成イメージ(たたき台)

- 多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成には、養成・採用・研修の各段階において、教職課程の学生、教師が、生涯を通じてそれぞれの強み・専門性を伸ばせるような仕組みにしていけることが必要。
- 養成段階では、共通で学ぶべき内容を再構造化した上で、専門的な学修に基づく強み・専門性も含めた教師養成を行う。採用段階では、教師に必要な基礎能力が身に付いているかを測定する。研修では、教職課程及び勤務を通じて身に付けた強み・専門性を更に伸ばせる機会を提供し、免許の上進がより可能となるようにする。



「心理分野に強みや専門性を有する教師の育成のための教職員向け研修プログラム」(日本スクールカウンセリング推進協議会,2026)



1日目		科目名	著者
1日目1限	第1章	スクールカウンセリング総論	石隈利紀
1日目2限	第2章	スクールカウンセリングの理論① -カウンセリング心理学-	水野治久 三村隆男
1日目3限	第3章	スクールカウンセリングの理論② -学校心理学-	家近早苗
1日目4限	第4章	児童生徒の発達的理解と発達の多様性 ー臨床発達心理学の立場からー	近藤清美 西山剛司

2日目		科目名	著者
2日目1限	第5章	不登校の未然防止と対応	五十嵐哲也
2日目2限	第6章	いじめの未然防止と対応	八並光俊
2日目3限	第7章	非行・暴力行為等の未然防止と対応	押切久遠
2日目4限	第8章	スクールカウンセリング上の諸課題に関する理解と対応	新井肇 新井雅

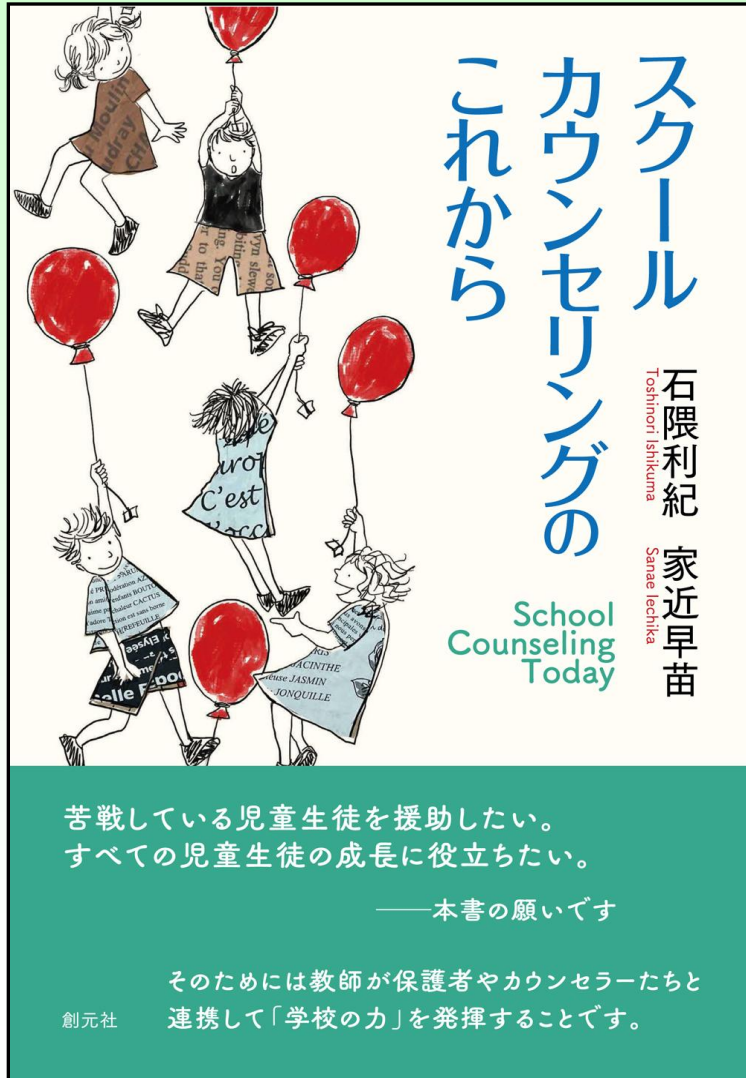
3日目		科目名	著者
3日目1限	第9章	集団に対する心理教育	小泉令三 大友秀人
3日目2限	第10章	個別面談	会沢信彦 金子恵美子
3日目3限	第11章	個人と環境のアセスメント	飯田順子 粕谷貴志
3日目4限	第12章	チーム支援におけるコンサルテーション・ コーディネーション	西山久子 田村節子

項目	第1回研修(導入編)	第2回研修(実践編)	第3回研修(応用・発展編)
対象者	学校現場でSC/SSWとして従事する者(特に初任者)	(第1回参加者に同じ)	(第1回参加者に同じ)
目的	学校現場に着任するSC/SSWが、その役割と活動の基本を理解し、円滑に業務を開始できるようになることを目指す。また、同期のネットワークを構築し、孤立を防ぐ。	1学期の活動を振り返り、SC/SSWに求められる中核スキル(アセスメント、ケース対応)をグループワーク等を通して振り返る。また、緊急時対応の基礎を学ぶ。	自身の専門性を振り返り、より発展的なスキル(組織への働きかけ等)を学ぶきっかけとすると共に、中長期的なキャリア展望を描けるようになることを目指す。
時期	着任初期(4月～6月)	夏休み期間(7月～8月)～1学期末	2学期(10月～12月)
各回のコンセプト	学校現場に着任するにあたっての心構え、役割理解、関係構築の基礎を学ぶ。	具体的なケースを通して、アセスメントや多様な課題への対応方法を実践的に学ぶ。	組織への働きかけや自己のキャリアを考え、専門性を高め続ける視点を養う。
実施方式/時間	対面研修(1日 ※少なくとも半日) ・ 講義＋グループワーク ※ハイブリッド開催も検討可	対面研修(1日 ※少なくとも半日) ・ 講義＋(経験豊富なSC/SSWを交えた)ミニケーススタディ／ロールプレイ	対面研修(1日 ※少なくとも半日) ・ 講義＋グループワーク＋先輩SC/SSWとの対話
講師(案)	・ 教育委員会担当者 ・ 大学教員等の専門家 ・ 経験豊富なSC/SSW(SVレベル) ・ 地域職能団体で教育分野に詳しい実践家	(第1回講師に同じ) ・ グループワークは経験豊富なSC/SSWがサポート・相談役として関与することが望ましい	(第1回講師に同じ)
事前準備	・ 自己紹介の準備 ・ 『生徒指導提要』の熟読(必須) ・ 『学習指導要領』の読み込み(推奨) ・ 教育分野における心理支援に関する学習(「教育・学校心理学」、「教育分野に関する理論と支援の展開」など)や実践の振り返り	・ 1学期の活動で印象的だった事例や困難事例の整理(振り返りシート等) ・ ケース課題に関する事前演習	・ 担当ケースに関する悩みや課題の整理 ・ 自身のキャリアに関する関心事項の言語化 ・ 自治体の最新の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の速報値を確認
研修内容	1. オリエンテーション、研修全体の目的共有 2. グループワーク 3. 自治体の現況・問題意識 4. 教育相談に関する自治体としての取組 5. 学校教育における支援の枠組み 6. 「チーム学校」におけるSC/SSWの役割・倫理 7. 学校組織の理解と教職員との関係構築法 8. 多職種・地域資源との連携 9. 職能団体・学会や外部研修の紹介	1. オリエンテーション、1学期の活動の振り返りと課題共有(グループワーク) 2. アセスメントの視点と方法 3. 緊急時対応の基本(危機介入、PFA) 4. ミニケーススタディ(グループワーク) ① 不登校 ② いじめ 5. 心理教育・自殺予防教育について 6. 学級や学校における援助サービスの現状把握・振り返り 7. 自己研鑽の考え方・外部研修の紹介	1. オリエンテーション 2. 組織へのアプローチ 3. スーパービジョン(SV)の重要性と活用方法 4. SC/SSWのキャリアパス 5. グループワーク(今後の目標設定、地域の資源マップ作成) 6. 自己研鑽の考え方・外部研修の紹介
使用教材/その他	・ 研修資料本体(パワーポイント資料) ・ 関連法規・指針リスト ・ 外部研修／職能団体リスト	・ 研修資料本体(パワーポイント資料) ・ 事例検討用資料 ・ 1学期振り返りシート	・ 研修資料本体(パワーポイント資料)

まとめ：「生徒支援」実践のための課題

- ①当事者である「子どもの権利」を守り、子どもの「意見」を活かすパートナーシップ：校則の見直しはステップになる
- ②発達支持的生徒指導・課題未然防止教育の計画・実践のモニタリング：授業や行事のカリキュラムマネジメント。
- ③一人ひとりの児童生徒の理解と関わり：アセスメントとカウンセリング：教職員の研修「生徒指導（教育相談）」
- ④チーム学校における支援のコーディネーション：「心理分野に強みや専門性を有する教師」の発見、育成、活用。生徒指導主事・教育相談コーディネーターなどの適材適所、生徒指導委員会の充実、SC/SSWの研修、学校・家庭・地域の連携促進

子どもへの支援を学ぶ1冊！



1. スクールカウンセリングとは
2. 学校教育の現場を生かして
3. 子どもの援助ニーズに応じて（重層的支援）
4. 援助するスキルを磨いて
5. 子どもの苦戦に応じて
（いじめ、不登校、発達障害など）
6. チーム学校で

当事者である子どもとのパートナーシップで、
子どもの成長を援助する。
教師・スクールカウンセラー・保護者らの
チーム援助。

参考図書

